

中西 弘樹¹: ヒルギモドキ属 *Lumnitzera* 植物(シクンシ科) 2種の漂着果実の比較とアカバナヒルギモドキ *L. littorea* (Jack) Voigt. の果実の日本への漂着初記録

Hiroki NAKANISHI¹: Comparison of drift fruits between two *Lumnitzera* (Combretaceae) species and first record of stranded fruit of *L. littorea* from Japan

シクンシ科ヒルギモドキ属 (*Lumnitzera*) 植物は、世界に2種あり、東アフリカ、マダガスカルから、東南アジアを経て、ミクロネシアまで分布する (Smith 1985; Pedley 1990), いわゆる旧熱帯区の植物である。いずれもマングローブ植物と考えられ、果実が海流で散布されることが知られている。日本にはヒルギモドキ (*L. racemosa* Willd.) 1種が沖縄本島以南に分布している (初島 1971, 1989)。

筆者は、長崎県長崎市の海岸に漂着しているヒルギモドキ属 (*Lumnitzera*) 植物の果実を発見した。種を特定するために文献を調べたが、ヒルギモドキ属2種の果実のはっきりした違いは記述されていなかった。筆者はこれまで八重山諸島からヒルギモドキの漂着果実を (Nakanishi 1988), またフィジーからもう一種の *L. littorea* (Jack) Voigt の漂着果実を採集し記録 (中西 2004) している。

L. littorea の和名については、金平 (1933) がベニバナヒルギ、コーナー・渡辺 (1969) がアカバナヒルギモドキの名を与えている。いずれもヒルギモドキの花が白色に近い色をしているのに対して、本種は赤色であることに基づくものであるが、ヒルギとは科が異なるため、ここではアカバナヒルギモドキの和名を用いることにする。

本研究は、八重山諸島小浜島で採集したヒルギモドキとフィジーで採集したアカバナヒルギモドキの漂着果実を比較するとともに、長崎県の海岸で採集したヒルギモドキ属の漂着果実の種名を特定し、記録することを目的に行った。

結 果

ヒルギモドキとアカバナヒルギモドキの漂着果実の大きさ

八重山諸島の小浜島で採集したヒルギモドキの果実は、長さ 12.4 ± 1.2 mm, 幅 4.6 ± 0.6 mm ($n=20$) で、長さに比べて幅の変異が大きい (Fig. 1)。果皮の繊維はやや太く短く、宿存花柱が突出している。また、散布体

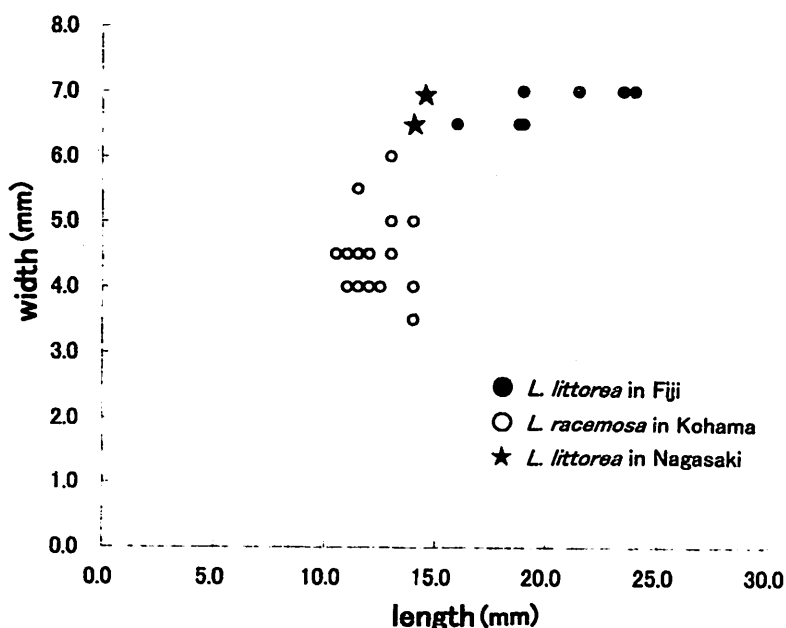


Fig. 1. Size of drift fruits of *Lumnitzera* species.

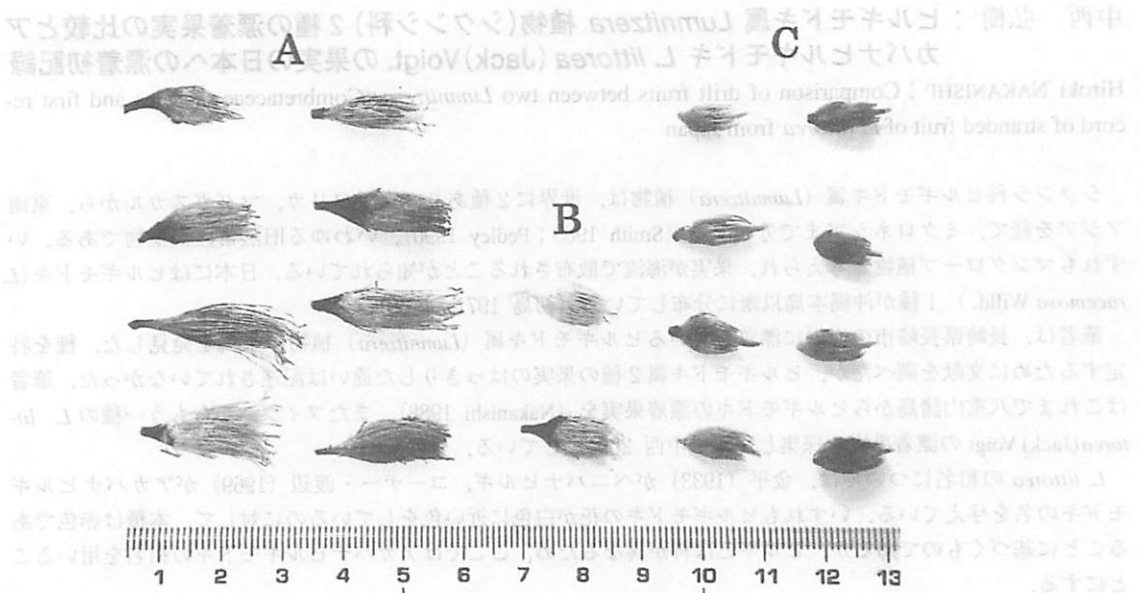


Fig. 2. Drift fruits of *Lumnitzera sepces*. A: *L. littorea* from Fuji. B: *L. littorea* from Nagasaki, C: *L. racemosa* from Kohama Island of Okinawa

は果柄をほとんど欠いている。フィジーで採集したアカバナヒルギモドキの漂着果実は、長さ 20.1 ± 2.7 mm、幅 6.8 ± 0.3 mm (n=8)であり、幅の変異は小さいが、長さの変異が大きい (Fig. 1)。果皮の繊維は細く長く、中心の宿存花柱を被っている。また、散布体はふつう果柄が着いている (Fig. 2)。小浜島のヒルギモドキとフィジーのアカバナヒルギモドキの漂着果実は大きさが異なり、長さはアカバナヒルギモドキがヒルギモドキの約1.6倍、幅は約1.5倍であった (Fig. 1)。

長崎県で発見されたヒルギモドキの漂着果実

ヒルギモドキ属植物の果実を発見したのは、2007年12月9日、長崎県長崎市見崎町田熊の浦である。同じ地点に2個のヒルギモドキ属植物の果実と、近くにゴバンノアシの果実が漂着していた。ヒルギモドキ属植物の果実は小さく、小さな木片など見分けがつきにくい。今回小さい漂着物を観察するために、打ち上げ帯に目を近づけたために発見できたもので、この浜の打ち上げ帯全体を詳しく調べた訳ではない。したがって、長時間かけて探せば、もっと多くのヒルギモドキ属植物の果実を発見できた可能性がある。この海岸は東シナ海に面した砂礫浜で、これまで多くの熱帯起源の漂着果実と種子の漂着を確認しており (中西・由比 2007)、長崎市の海岸の中では、南方起源の果実や種子が最も多く漂着する海岸である。なお同じ浜でのその後の調査では、ヒルギモドキ属植物の果実は発見されていない。

発見した2個の果実の大きさは、それぞれ長さが14.0、14.5mm、幅が6.5、7.0mmであった。やや扁平な紡錘形で、細い繊維質が露出しており、先端部は宿存花柱が伸びている。また散布体には明らかに果柄が着いている (Fig. 2)。

考 察

小浜島とフィジーの測定結果から、ヒルギモドキとアカバナヒルギモドキの果実は、大きさが明らかに異なっており、容易に区別できることがわかった。測定したものは漂着果実であるので、実際の大きさよりも、やや小さくなっているものと思われる。ヒルギモドキとアカバナヒルギモドキの果実の形態については、Pedley (1990) が、ヒルギモドキが狭卵形で、長さ1-1.5cm、アカバナヒルギモドキが狭楕円形で、長さ1-1.5cmとしており、長さにおいて差はない。しかし、金平 (1933) は、アカバナヒルギモドキは紡錘形で、長さ2.5

cmとしている。一方、ヒルギモドキについては、初島 (1971, 1989) が長さ1.5cm, 澤底 (1982) が長さ8-11mm, 径5-7mmとしている。フィジーに漂着していたアカバナヒルギモドキの果実は、金平 (1933) の示した値に近く、Pedley (1990) が示したアカバナヒルギモドキの果実の長さは疑わしい。

長崎市で発見された漂着果実は、長さは小浜島のヒルギモドキとフィジーのアカバナヒルギモドキの中間の値を示し、幅はアカバナヒルギモドキと同じであった。また、散布体に果柄が残っている点は、アカバナヒルギモドキに一致するが、宿存花柱が露出している点はヒルギモドキに一致する。小浜島とフィジーで採集したものは、いずれも近くの自生地から流されてきたものと考えられるが、長崎市で発見されたものは、長期間漂流してきたものである。アカバナヒルギモドキの場合、漂流中に果皮の外側の繊維が取れると、風化が進み宿存花柱が露出するようになる。したがって、長崎市で発見されたヒルギモドキ属の漂着果実は、アカバナヒルギモドキと考えられる。

これまで日本本土では、ヒルギモドキ属植物の果実の漂着は知られてこなかった。これは果実の形態が、木片の一部のようにみえることや小さいことがあげられる。今後西南日本各地の海岸で発見される可能性がある。

引用文献

- 初島住彦 1971. 琉球植物誌. 940pp. 沖縄生物教育研究会, 那覇.
 初島住彦 1989. シクンシ科 COMBRETACEAE. 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・冨成忠夫編. 日本の野生植物木本Ⅱ. pp. 106-107. 平凡社, 東京.
 金平亮三 1933. 南洋群島植物誌. 南洋庁, 東京. (1962. 井上啓店復刻)
 コーナー・渡辺清彦 1969. 図説熱帯植物集成. 1147pp. 廣川書店, 東京.
 Nakanishi, H. 1988. Dispersal ecology of the maritime plants in the Ryukyu Islands, Japan. *Ecological Research* 3 : 163-173.
 中西弘樹 2004. フィジー諸島の漂着種子とモダマ. 漂着物学会誌 2 : 19-23.
 中西弘樹・出比良雄 2007. 2006年夏の長崎県沿岸における流木・その他の大量漂着. 漂着物学会誌 5 : 33-38.
 Pedley, L. 1990. Combretaceae. *Flora of Australia* 18 : 255-293.
 澤底安喜 1982. 沖縄産樹木の果実と種子について (Ⅲ). 沖縄県林業試験場研究報告 29 : 28-60.
 Smith, A. C. 1985. *Flora Vitiensis Nova. A New Flora of Fiji*. vol. 3. 758pp. The Pacific Tropical Garden, Lawai.
 Summary: The differences of drift fruits between *Lumnitzera racemosa* collected from the coast of Kohama Island in Okinawa and *L. littorea* collected from the coast of Fiji were observed. The fruit of *L. littorea* is larger than the one of *L. racemosa*. Stranded fruits of *Lumnitzera* species were found on the coast of Nagasaki Prefecture, western Japan on December 9 th 2007. The fruits were identified to *L. littorea*. This is the first record from Japan.

(Received June 30, 2008; accepted July 21, 2008)

¹ 〒852-8521 長崎県長崎市文教町1-14 長崎大学教育学部生物学教室

² Biological Institute, Faculty of Education, Nagasaki University, 1-14, Bunkyo-machi, Nagasaki 852-8521